

(1) 令和元年度 1 学期いじめ防止対策の取組状況に係る報告

① いじめ見逃し“ゼロ”を目指した取組についての報告

◆ 心の絆プロジェクト生徒会・児童会代表者ミーティング

- 日 時 令和元年 8 月 26 日 (月) 13:30~16:00
- 参加人数 120 人 (児童生徒 80 人、担当者 40 人)
- 内 容 ・「いじめをなくすために」(小・中学生が分かれて協議)
・全体報告
・「私たちのユニットで取り組みたいこと」(ユニットごとに分かれて協議)

【児童生徒の感想】

- ・今日は色々な意見を聞くことができて良かった。同じ地区の学校だけでは、こんなに多くの意見を聞くことはできなかったの、とても良い経験になった。(児童)
- ・生徒会は、学校をよりよくするための話し合いをよくするが、いじめに絞った話し合いはあまりなかった。また、クラスで話し合っても、あまり意見をぶつけ合う事はできなかった。今回の、色々な中学校の人たちと一緒にいじめについて考え、話をぶつけ合うことができたことは、とても充実した時間だったと思う。(生徒)
- ・話し合いを通して、自分にはない考え方や新しい取組など、色々なことを知ることができて、すごくよかった。小学生も堂々と発表していて、最近の小学生はすごいなと思った。すごく有意義な時間を過ごすことができた。(生徒)
- ・想像していた以上にたくさんの意見が出て、素晴らしいと思った。私たち教師が思っている以上の意見が出たので、色々な考え方をしていけないといけないなと思った。2 学期、実行していきたいなと思った。(教員)

【評価検証委員会委員による視察後の感想】

- ・子ども達が、本当に考えようとしていた姿を見ることができた。助けたい気持ちを形にする(深める)方法を考えていくと、なお、深まりがみられるように感じた。
- ・子ども達が考えている間も、先生方の学びの場となるように、先生方だけで考える時間や場があっても良いのではないかな。
- ・この子ども達の話し合いの結果をどのように学校に落とし込むかが大切である。
- ・子ども達の関係性、つながりをつくっていくために学級内での遊びが大切である。
- ・ミーティングの代表者だけでなく、各学校の各学級でやってみることができればさらに子ども達に力がついてくる。(県立大の学生の皆さんの協力を得ることができればありがたい)

《成果と課題》

- ・学校の枠を越えて、子ども同士がつながり、多くの児童会生徒会代表者と意見交流することで、児童生徒一人ひとりが刺激し合って、各個人の意識、また、各学校の児童会生徒会としての意識の高揚が図れた。このことを契機に、各学校の児童会生徒会の取組がさらに充実していくことであろうと考えられる。
- ・持続可能な活動としていくために、会の運営方法等についてより効果的な方法を検討していきたい。また、生徒会・児童会代表者ミーティングの様子を、多くの教職員と共有することで、より教職員・児童生徒が一体感のある「いじめ防止対策」となっていくと考えられる。

◆ 教職員の資質向上に関する取組

○ アセスに関する基礎的な研修（参加者：第1回79人、第2回36人）

回数	日時	テーマ	講師	対象	会場
1	4月19日(金) 13:30～16:30	アセスを活用した学校 適応感を高めるための 指導の在り方について	広島大学大学院教育学研究科 教育実践総合センター 教授 栗原 慎二 氏	新任管理職 新任主幹教諭 アセス推進担当	青少年女性 センター
2	5月21日(火) 14:00～16:00	アセスデータの入力と 処理※実技講習	教育相談センター 指導主事	教頭 アセス推進担当	浜の宮中学校 CP室

【受講生の感想】

- ・今まで無意識に生徒と関わっていた中にとっても大切なポイントがあったと気づかされた。これまで経験してきたことを具体的に考え、個々の生徒に合ったサポートを若い先生方とも共有できるようにしていこうと思う。(中学校教諭 50代)
- ・理論や知識を学ぶことの大切さを改めて痛感した。仮説を立て、検証する力を身につけることで問題の解決・未然防止を図っていきたい。(小学校主幹教諭 40代)
- ・子どもの理解に基づいた生徒指導、という基本に立ち返ることができた。その子に合ったサポートを本気で行うことで、「大切にされている自分」に気づいていくことが大事だと思った。(小学校管理職 50代)

○ 教育相談スキル研修の実施（参加者：41人）

回数	日時	テーマ	講師	対象	会場
1	5月16日(水) 14:00～16:30	「持続可能な幸福を自ら創る生徒を育てる」	立命館大学大学院 教職研究科 菱田 準子 氏	教育相談コーディネーター	市民会館 大会議室

【受講生の感想】

- ・「レジリエンスを育てる」視点で教育活動をしていない自分に気づいた。楽観主義者まではいかなくても、困難を乗り越える力を子どもにつけさせることが、子ども達が将来幸せをつかむことにつながるということが分かった。(小学校教諭 40代)
- ・認められることの大切さを感じた。生徒の話にしっかりと向き合うことで相談しやすい関係づくりができることを学べたので、職員にも伝え、より良い相談体制をとれるようにしたいと思う。(中学校教諭 30代)

○ 学校生活適応推進研修会の実施〔生徒指導テーマ別研修〕（参加者：延452人）

回数	日時	テーマ	講師	対象	会場
1	8月23日(金) 9:15～12:15	学級経営	同志社大学 心理学部 学部長 神山 貴弥 氏	希望者	青少年女性 センター
2	8月23日(金) 13:30～16:30	協同学習	山口大学 教育学部 准教授 沖林 洋平 氏	希望者	青少年女性 センター
3	8月26日(月) 9:15～12:15	SEL	島根県立大学 人間文化学部 准教授 山田 洋平 氏	希望者	青少年女性 センター
4	8月26日(月) 13:30～16:30	個人支援・チーム支援	広島大学大学院教育学研究科 講師 山崎 茜 氏	希望者	青少年女性 センター

回数	日時	テーマ	講師	対象	会場
5	8月28日(水) 9:15～12:15	キャリア教育	ユマニテク短期大学 学長 鈴木 建生 氏	希望者	青少年女性 センター
6	8月28日(水) 13:30～16:30	マネジメント	広島大学大学院教育学研究科 准教授 米沢 崇 氏	希望者	青少年女性 センター

【受講生の感想】

- ・普段から、疑問・不安・悩みに思っていることが、「なるほど」「そういうことか」と改めて考える機会になった。2学期に向けて「こうしたい」が少し見えてきた。バラバラになっていたことについて、すっきりと考える柱をいただき、今後、学級経営を考える際に振り返りたいと思う。(小学校教諭 40代)
- ・マズローの欲求階層説についての理解が深まった。承認欲求をねらって協同学習を設定していくことの大切さを感じた。「協同学習をなぜ行うのか?」。その答えが少し見えてきたような気がした。(小学校教諭 30代)
- ・これまでの研修で学んだこととは違う視点で考えられるお話がたくさんあった。初めて知った言葉も多く、とてもよい学びとなった。マネジメントの意味やミドルリーダーとしての学校での役割などについてよく分かった。学校組織がうまく機能することが、子どもたちのためになることも分かり、これからの活動に生かしていきたいと思った。(小学校主幹教諭 40代)

《成果と課題》

- ・昨年度に続いて、夏季休業期間中の集中開催とした。夏季休業期間ということもあり、3日間で延べ452名の先生方に研修を受講していただくことができたことは大きな成果であると考えている。また、いずれの研修講座も受講後の評価は、4件法で3.7前後と高い評価を得ており、先生方の学びにつながっていると捉えることができる。
- ・先生方の一人ひとりの学びにはつながっているが、この学びを各学校に持ち帰って他の教職員にどのように落とし込むのが課題である。
- ・夏季休業期間の最終週での開催ということで、各学校において、伝達研修をする時間が十分に取れない面もあるため、研修講座の開催日程等、基本設計からもう一度検討し直す必要がある。

○ 加古川市教職員研修での研修報告 (参加者: 幼、小、中、特別支援学校の教職員 1,280名)

回数	日時	テーマ	報告者	対象	会場
1	8月20日(火) 14:00～16:30	「いじめ見逃し“ゼロ” を目指して」	教育相談センター所長	市内全教職員	市民会館 大ホール

《成果と課題》

- ・幼稚園の教職員から中学校までのすべての教員が、いじめ問題について共通理解を図ることは大きな意味があったと考える。
- ・教職員支援機構の主催研修の内容に係る研修報告として、法の定義に基づくいじめの認知の在り方や様々ないじめ問題への対応例等を伝達することで、いじめ問題に関する認識が深まるとともに、対応の在り方についても基準となる指標ができたのではないかと。

② いじめ防止対策の“見える化”についての報告

◆ いじめ防止市民フォーラム

- 日 時 令和元年9月1日（日）14：00～16：00
- 参加人数 600人
- 内 容
 - ・いじめ防止に向けた加古川市の取組報告
 - ・生徒会・児童会代表者ミーティングからの報告
 - ・パネルディスカッション「いじめを許さない学校づくりに向けて」
- 参加者の声（満足度：3.4（4件法）、取組への理解度：3.4（4件法））
 - ・大人が見て感じる世界と、実際にその世界にいる子ども達の感じている事は違うのかもしれないという事に気づきました。子どもと直接話し、事実を知る事は大切だなと思いました。「いじめない！」ということに焦点を持つのではなく、皆が仲良くお互いを認め合えるような学校生活づくりが大切だなと感じました。それが、いじめをなくす事につながると思いました。子ども達のディスカッション、とても良かったです。
 - ・生徒間の問題＝解決には生徒の力が大切。あらためて、生徒の力と生徒・教師の信頼の重要性を認識しました。
 - ・非常にレベルの高いフォーラムだった。中学生による司会進行、児童生徒によるミーティング、そしてパネリストたちの意見など。特に、子どもたちの意見を聞いていると、将来の加古川は大丈夫、安心して任せられることができました。加古川市の教育が豊かな方向に推進していることがよく分かりました。
 - ・認知件数を増やす努力は良い。いじめの見逃しをなくす、いじめを絶対に許さないという目標に、いろいろと意見を出し頑張っているのが見えた。こういう活動でいじめは減ると思う。

◆ 家庭への啓発

- 配布物による啓発
 - ・「子どもはいつも問いかけています」（第1回評価検証委員会再掲）
 - ・子どものSOS発見リスト（第1回評価検証委員会再掲）
 - ・加古川市教育委員会作成「いじめ防止啓発チラシ」
- (参考)
- ・兵庫県教育委員会作成「いじめ防止啓発チラシ」

◆ PTA連合会（小学校部会、中学校部会）との連携

- 日 時 令和元年6月21日（金）及び6月24日（月）
- 対 象 各小中学校PTA会長
- 内 容 「いじめ見逃し“ゼロ”を目指して」加古川市のいじめ防止対策について
- 参加者の声
 - ・PTAとして、いじめ防止のためにできることは何かということについて検討していきたい。
 - ・自己有用感を育むことの大切さはこれまでも聞いたことはあるが、具体的な例が聞けたので、他の役員とも共有していきたい。

≪成果と課題≫

- ・いじめ問題について、児童生徒の保護者と情報を共有し、同一步調で対応していけるようにフォーラムや啓発チラシの配布等、様々な啓発を行っていくことで、いじめ対策等への理解は進んでいると考えられる。

- ・いじめの問題への対応については、子どもを中心に据え、子どもの成長につなげていくことを念頭に保護者と連携していくことが必要であるため、今後も啓発活動は続けていきたいと考える。
- ・一部の保護者の理解・協力にとどまらないように、機会をとらえて学校からの情報発信でいじめ防止を啓発していけるよう、学校との連携の在り方を考えていきたい。

③ 自殺予防教育の推進についての報告

◆ 相談行動促進（自殺予防教育）研修会の実施（全体研修及び校内研修支援）

○ 自殺予防教育に関する全体研修（参加者：57人）

日時	テーマ	講師	対象	会場
6月6日(金) 13:30~16:30	相談行動促進（自殺予防教育）	加古川市教育相談センター 学校支援カウンセラー 阪中 順子氏	教育相談コーディネーター	青少年女性センター

【受講生の感想】

- ・新たに作られたリーフレットを使っての自殺予防教育をしていくことは、自殺を防止するためだけではなく、周囲の人がSOSにどう対応するかを教えるためにも重要だと分かった。
- ・自殺に関する様々なデータを見たり、文科省のアンケート結果を見たりして勉強になった。このような命に係わる研修は担当者が教職員に伝達するのではなく全教職員の研修で行うべきではないか。

○ 自殺予防教育に関する校内研修への講師派遣（参加者：403人）

実施期間	研修内容	研修内容	対象	会場
7月～9月上旬 小学校13校 中学校2校	相談行動促進（自殺予防教育） リーフレットの活用について 指導案を用いての演習	相談行動促進（自殺予防教育） リーフレットの活用について 指導案を用いての演習	教職員	各学校 青少年女性センター等

【受講生の感想】

- ・児童の“死”に対する考え方を自分自身があまり考えたことがなかったのでよい機会になった。子どもたちと一度じっくり話し合う機会を持ちたいと思う。“まだ小学生だから”ではなく、“小学生のうちに”一緒に考えようと思った。
- ・リーフレットを使っての授業は「寝た子を起こすな」の発想で抵抗があったが、自殺予防教育は、子どもの命を守るためにもとても大事な教育だと思った。
- ・ロールプレイをしてみて、自分が生徒の気持ちを分かっているつもりになっていたと気づいた。より生徒たちに寄り添いながら傾聴、共感し、少しでも生徒の悩みが軽くなったり解決できたりするよう、対応していきたいと思った。

≪成果と課題≫

- ・担当教職員に自殺予防教育研修を行い、各学校での伝達研修を通して自殺予防教育の現状や重要性の理解を図ることができた。
- ・継続して自殺予防教育を行うことにより、自他の命を大切にする児童生徒を育むとともに、援助希求のできる児童生徒の育成に努める。
- ・各学校からの実施後のアンケート結果を把握し、課題の解決に向けて検討する。

④ 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査から

◆ いじめ認知件数の推移

	平成31年	令和元年	令和元年	令和元年	合計
	4月	5月	6月	7月	
小学校	50	66	108	160	384
中学校	24	18	53	50	145
合計	74	84	161	210	529

※注) 令和元年度いじめ認知件数は7月末時点での速報値

◆ いじめの様態

いじめの様態	小学校		中学校		合計
からかい・悪口	187	48.7%	76	52.4%	263
からかい・悪口+仲間外れ・無視	19	4.9%	13	9.0%	32
からかい・悪口+ネットで誹謗中傷	0	0.0%	3	2.1%	3
からかい・悪口+暴力	20	5.2%	8	5.5%	28
からかい・悪口+恐喝	4	1.0%	0	0.0%	4
からかい・悪口+その他	8	2.1%	5	3.4%	13
仲間外れ・無視	29	7.6%	7	4.8%	36
仲間外れ・無視+ネットで誹謗中傷	0	0.0%	1	0.7%	1
仲間外れ・無視+その他	3	0.8%	0	0.0%	3
ネットでの誹謗中傷	1	0.3%	7	4.8%	8
暴力	51	13.3%	3	2.1%	54
その他 ※	62	16.1%	22	15.2%	84
合計	384	100.0%	145	100.0%	529

※ その他・・・物隠し、私物へのいたづら、嫌がらせ、落書きなど

◆ いじめ発見のプロセス

発見のきっかけ	小学校		中学校		合計
アンケート	119	30.8%	12	8.3%	131
本人	89	23.1%	52	35.9%	141
他の児童生徒	29	7.5%	29	20.0%	57
学級担任	34	8.8%	12	8.3%	46
関係教員	9	2.3%	6	4.1%	14
養護教諭	1	0.3%	2	1.4%	3
保護者	95	25.1%	29	20.0%	124
その他 ※	8	2.1%	3	2.1%	13
合計	384	100.0%	145	100.0%	529

※ その他・・・独自の教育面談、スクールカウンセラーなど

⑤ スクールサポートチームの活動状況について

◆ 第1回定例会

- 日時 平成31年4月22日(月) 15:00~16:00
- 内容 ・加古川市いじめ防止対策改善基本5か年計画(2019年度版)の概要説明

◆ 第2回定例会

- 日時 令和元年7月23日(火) 15:00~16:00
- 内容 ・学校における生徒指導上の諸問題に係る対応について協議
・児童生徒どうしのトラブルにおける保護者間の話し合いについて

○ 協議内容まとめ

【話し合いまでの事前準備】

- ・事実が不確かなままの話し合いは、別の疑念が生じ問題が拡大する可能性があるため、正確な事実を確定させ、記録にまとめておく。
- ・話し合いの目的を双方の保護者に伝え、理解を得ておく。
- ・話し合いの流れ、話し合いに立ち会う職員を確認し、それぞれの役割を決める。

【話し合いの際の留意事項】

- ・話し合いの目的を双方の保護者と改めて確認するとともに、記録をもとに確認した事実、これまでの経緯、指導の内容等を丁寧に説明する。
- ・双方の納得が得られないまま、謝罪をもってトラブルを終わらせようとしない。
- ・声の大きな保護者に対して、同じようなトーンでは話をせず、保護者をなだめ冷静になるまで待つように心がける。
- ・双方の保護者の言い分は、丁寧に聞き取る。そのうえで、学校として今後どのように関わっていくのか等を丁寧に説明し、理解を求める。
- ・保護者どうしの話し合いの場に、関係児童生徒を同席させるのは望ましくない。
- ・話し合いの内容、過程の正確な記録を残すようにする。

【話し合い後の留意事項】

- ・当面は、児童生徒の様子を十分に観察するとともに、学校の対応に安心感をもってもらい、指導の協力を得られるようにするため、保護者と密に連絡をとることを心がける。
- ・関係児童生徒の様子に変化がないか、複数の目で見守り常に情報共有する。

《成果と課題》

- ・第2回の定例会の協議内容については、校長会で管理職へ情報共有した。その後の対応に活用していただいたという報告があった。
- ・学校から寄せられる個別の案件への対応をもとに、汎用性のある研修資料としてまとめ、効率よく共有できる仕組みを構築し、学校の対応力の向上を図る。